

# インプラントを入れるにあたって

## インプラントって

歯科用インプラントとは人工歯根のことです。天然歯が何らかの理由で失われ、歯の修復が必要とされた場合に顎骨にインプラントを埋め込みます。その上に人工の歯を固定します。



近代インプラントは、1952年にスエーデンのブローネンマルクという医師により創始、始まりました。人体は異物が入って来ると、体外に排出しようとする働きを持っています。その為、歯の代わりに顎の骨に何かを入れても抜け落ちてしまいます。しかし、人工関節などにも使用されているチタンは人体に対して親和性が良く、骨と結合

することが発見され、インプラントが可能になりました。

人間の口の中には、上顎骨・下顎骨・舌など、複雑な器官が絶妙なバランスで機能しています。インプラントを行う際には、レントゲン検査はもちろんCT検査等でより多くの情報と診断が重要になります。そういった事で、色々なリスクを軽減する事が出来ます。

インプラントは、年齢的に骨の発育がほぼ完了する二十才前後から行うことが出来ます。年齢に上限はありません。しかし、重度の歯周病の方、骨の量や密度の十分でない方、全身疾患のある方、妊娠7カ月以降の方、ヘビースモーカーの方は制限させていただく場合があります。重度の歯周病の方は、お口の衛生状態が悪い場合が多くそのままで感染するリスクが高くインプラントをすることはできません。歯周病を治療し正しい歯磨きを身に付けて頂いてからインプラントを行います。

インプラントは、局所麻酔をかけて行いますので手術中に痛むことはまずありません。本数が多い場合などは、術後に少し腫れることはありますが2〜3日で治ります。また、より快適に又、インプラントの寿命を延ばす為には適切なメンテナンスが不可欠です。

メンテナンスには大きく分けて2種類あります。

セルフメンテナンス（自分で行うメンテナンス）

インプラントの自己管理方法は、決して難しくありません。患者様に合った方法をお教えします。また、最近では、超音波ブラシといってブラシの届きにくい部分をきれいにする器具も開発されています。

プロフェッショナルメンテナンス

噛み合わせの定期検査、レントゲンによる骨の検査や冠のゆるみなどを検査します。また、同時にセルフメンテナンスの状態を確認します。

インプラントは虫歯にはなりません。細菌感染によりインプラント周囲炎を起こすことがあります。ブラッシングの指導と共に、定期

的な歯垢・歯石のクリーニングを行うことで予防できます。治療の成功を長い目で考えた場合、治療後の管理の仕方の方が重要だと言えるかもしれません。

歯科医師 中村

